八潮みらいコンセプト

Yashio Community Future Concept

令和7年 4月 1日

Contents

1. 概要

2. リサーチ

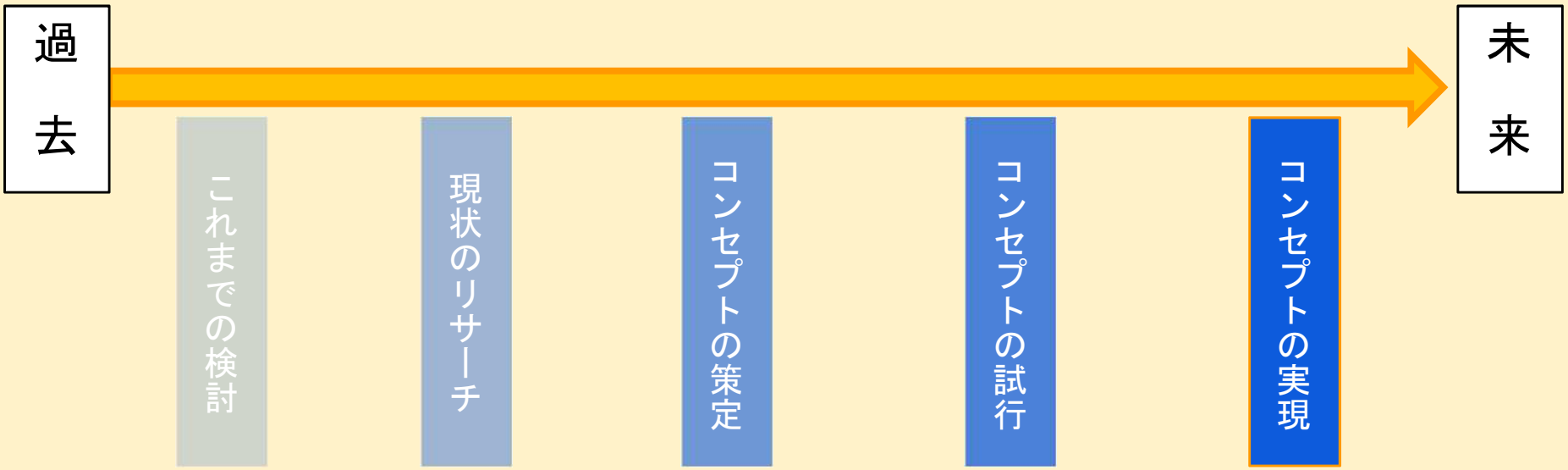
3. コンセプト

4. ビジョン

5. 事例等

八潮みらいコンセプトとは

- 八潮地区内における持続可能な地域活動の実現に向けた方向性を定めるもの。
- 過去のアンケートやワークショップで得られた意見を踏まえつつ、新たに地域住民へのインタビューやフィールドワーク等のリサーチを実施し、現在の八潮で望まれる施設や地域活動イメージを取りまとめている。
- 本コンセプトに基づき、今後の八潮地区のまちづくりを推進していく。



八潮みらいコンセプトの背景

八潮地区は入居開始から築40年が経過。今後、団地や公共施設の更新期を迎えるにあたって、これまで以上に住民・関係団体同士のつながりづくりが求められている。また年月の経過に伴い、入居開始時とは住民の人口構成比や、人口そのものも大きく変化しており、それに伴い住民の暮らしに必要なインフラやサービスも大きく変化している。

一方、団地や公園など、地区には東京都ならびに民間事業者の施設が多数存在し、複数の事業者が一体となって八潮地区全体のまちづくりを検討する状況には至っていない。八潮地区がこれからも住み良い街として認識され、住民の本質的に豊かな生活を支える場所として発展していくためにも、今後ますます地区全体の未来を構想し実施するまちづくりの取り組みが重要になってくると思われる。

そんな中、八潮地区の中心に位置しさまざまな人々に長年利用されてきた八潮地域センターならびにこみゅにてぃぷらざ八潮もまた施設の利用状況を踏まえたあり方の再検討を行うべき時期を迎えている。品川区ではこれら施設をまちづくりの先駆けと捉え、「新たな地域コミュニティ拠点」として活用することを目標としている。

こうした背景から八潮みらいコンセプトは、地域全体を巻き込んだまちづくりの発展およびより多くの住民のウェルビーイングに資するインフラならびにサービスの提供を目指す。

八潮地区の概要

- 人口 11,578人、世帯数は 5,820 世帯（2025年1月）
- 1985年の入居完了後、18歳未満の若年層は減少傾向
- 高齢化率は、1995年以降急激に上昇し、2025年は36.5％
- 高齢単身世帯は、10年間で約2倍に増加
- 外国人居住者が増加傾向にある

敷地面積	約 40.8 ha
住宅棟数	住宅団地 69棟、他 2棟（八潮寮、八潮わかくさ荘）
全戸数	住宅団地 5,248戸、他 60戸 （分譲住宅 1,859戸、賃貸住宅 3,389＋60戸）
自治会数	28 自治会（8棟 570戸は自治会なし）
分譲住宅管理組合数	6 組合
住宅管理者・分譲事業者	東京都住宅局 15棟（賃貸） 日本勤労者住宅協会 1棟（分譲） UR都市機構 41棟（分譲 28棟、賃貸 13棟） 東京都住宅供給公社 11棟（分譲 7棟、賃貸 4棟） ビレッジハウス・マネジメント 1棟（賃貸）

人口データでみる八潮地区

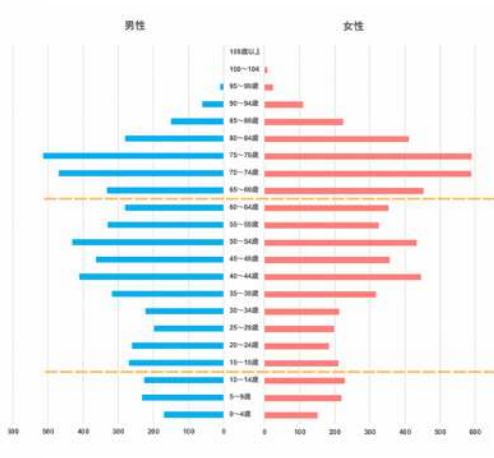
人口は緩やかに減少しており、世帯あたりの人数も減少。世代別にみると20代の数が品川区全体と比べてかなり少ないことから、子どもの成長等を機に人口が流出していると考えられる。

八潮の世帯数は入居時からほぼ横ばいであるものの、1世帯あたりの人員はピーク時は3人であったが、現在は2人になっている。

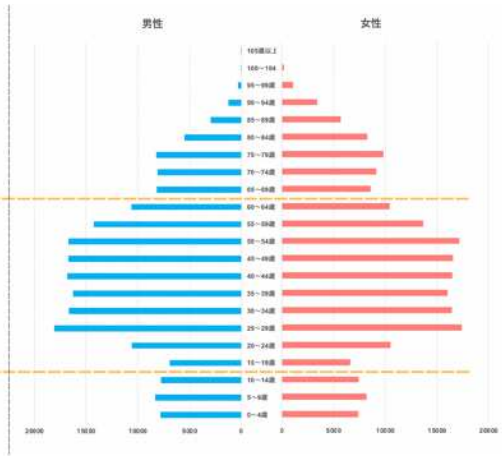
品川区全体と比べると高齢者が多く、とりわけ20代からの流出の傾向がみられる。およそ3人に1人が65歳以上である。

人口総数と世帯数の推移

八潮地区



品川区全体

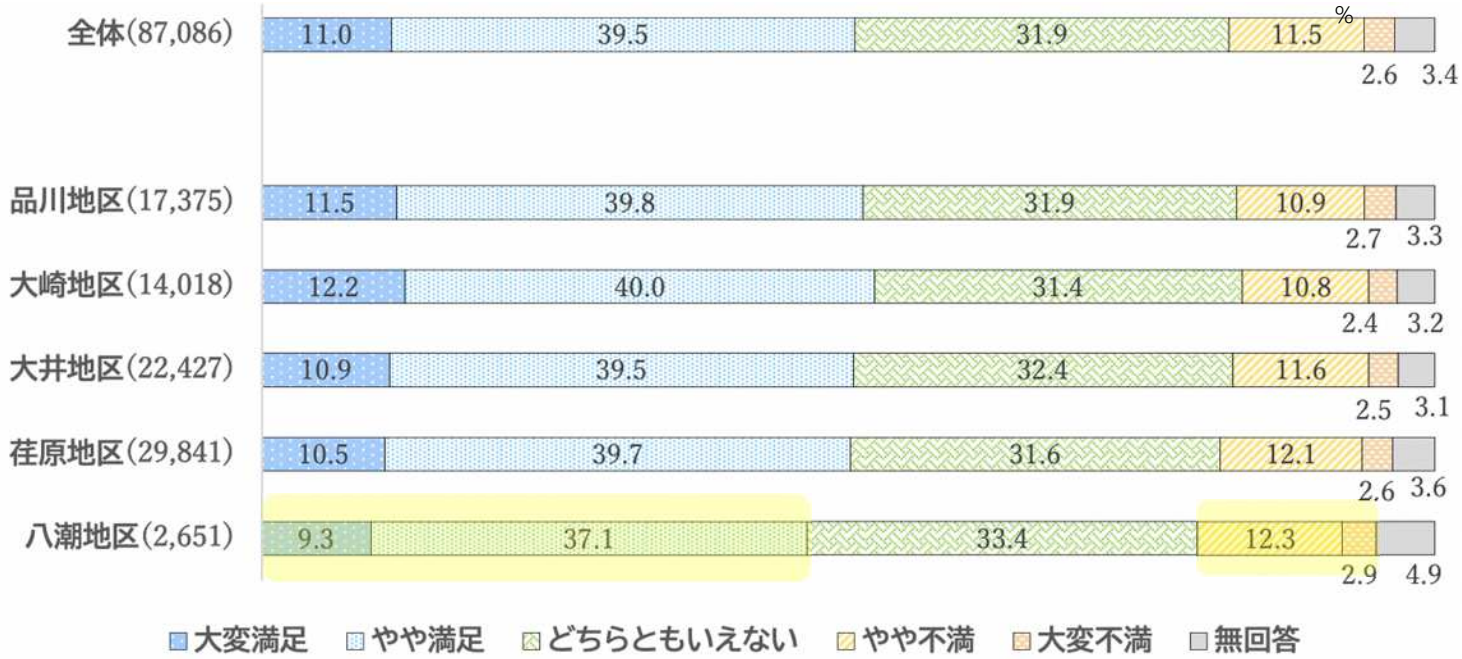


出典：品川区の統計（令和6年）

身体と心の健康

身体と心の健康に関する意識として、品川区内の他の地区に比べて「大変不満」と「やや不満」を合わせた割合がやや高く、「大変満足」「やや満足」を合わせた割合がやや低い。

自分らしく幸せに暮らしていくために重要なこととしての「身体と心の健康」について、「大変満足」「やや満足」「どちらともいえない」「やや不満」「大変不満」の5段階から回答を選択

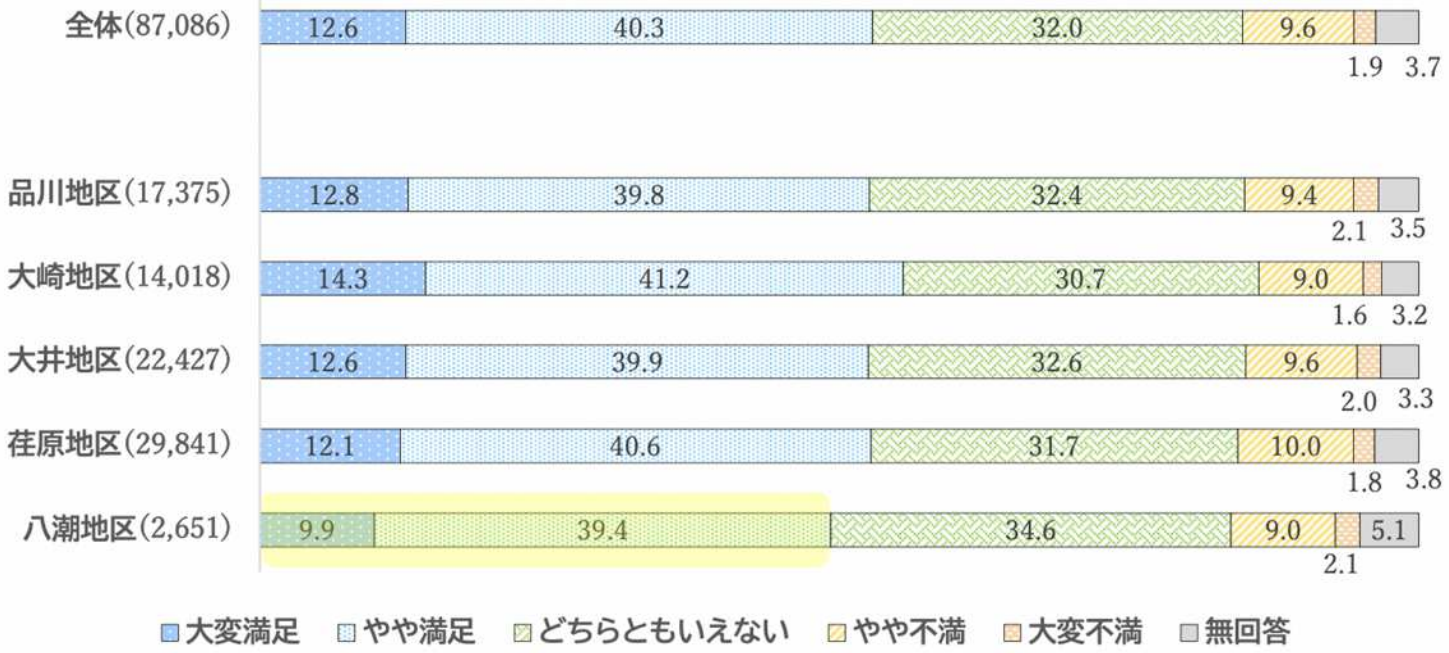


出典：品川区民アンケート結果報告（令和6年3月）

友人・知人（家族以外）との交流

友人・知人（家族以外）との交流に関する意識として、品川区内の他の地区に比べて「大変満足」と「やや満足」を合わせた割合がやや低い。

自分らしく幸せに暮らしていくために重要なこととしての「友人・知人（家族以外）との交流」について、「大変満足」「やや満足」「どちらともいえない」「やや不満」「大変不満」の5段階から回答を選択

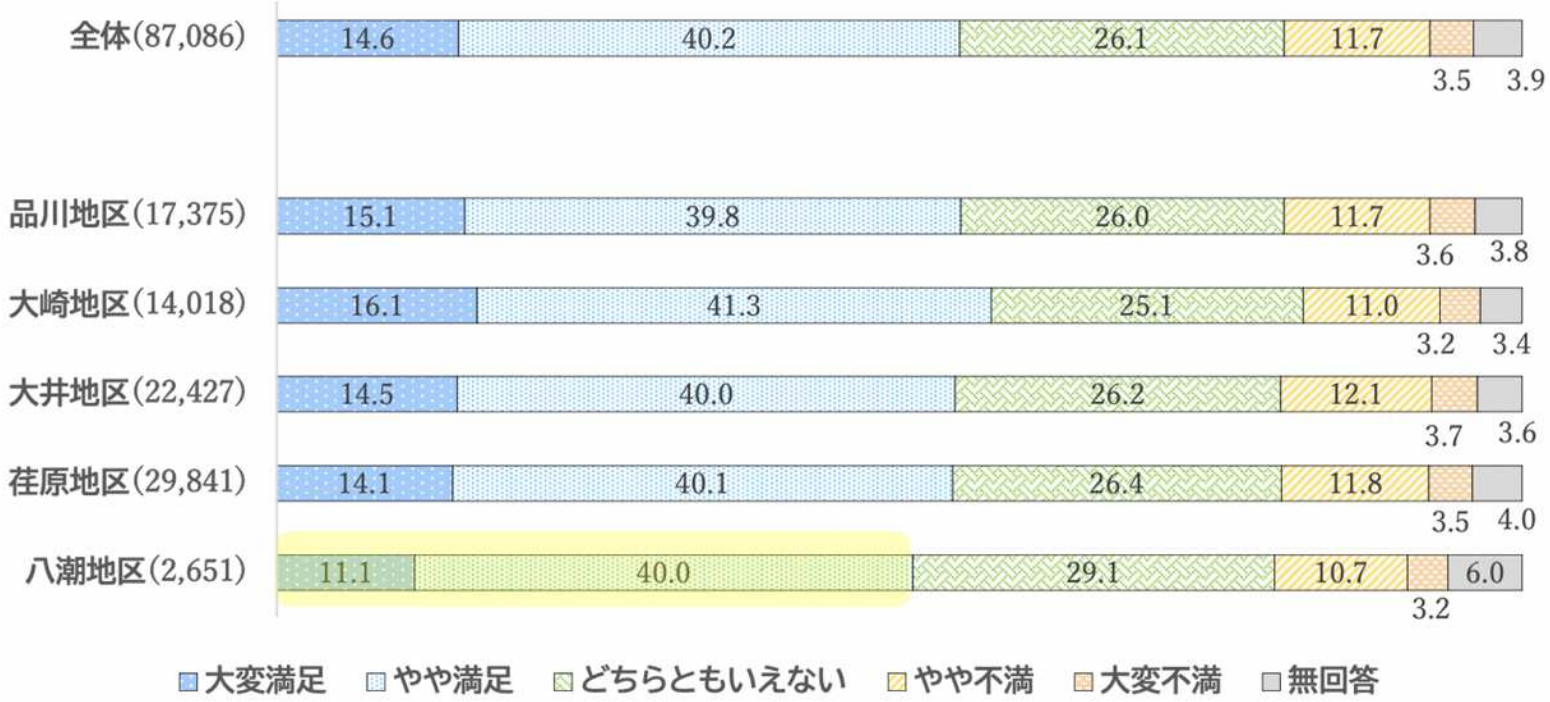


出典：品川区民アンケート結果報告（令和6年3月）

自由な時間や充実した余暇

自由な時間や充実した余暇に関する意識として、品川区内の他の地区に比べて「大変満足」と「やや満足」を合わせた割合がやや低い。

自分らしく幸せに暮らしていくために重要なこととしての「自由な時間や充実した余暇」について、「大変満足」「やや満足」「どちらともいえない」「やや不満」「大変不満」の5段階から回答を選択



出典：品川区民アンケート結果報告（令和6年3月）

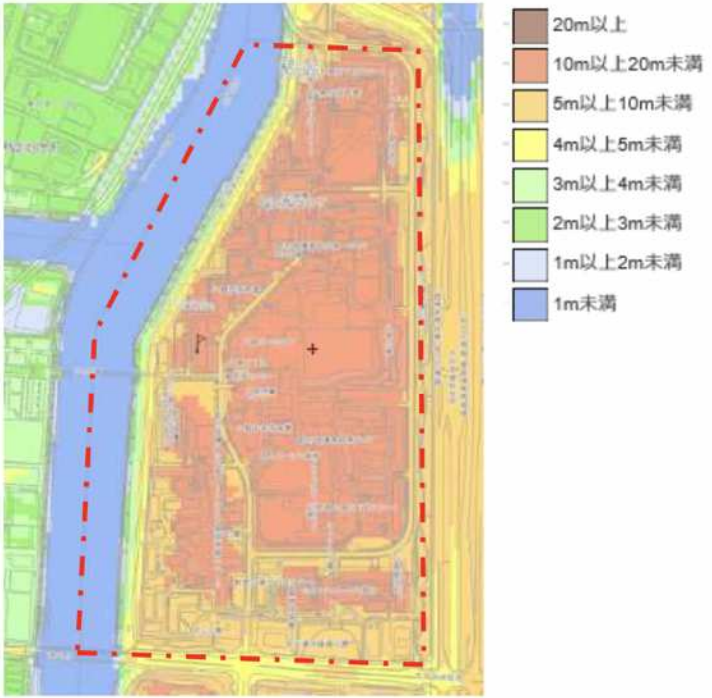
防災活動への参加

総合危険度はもっとも低いランク１に位置付けられている。防災活動がコミュニティをつなぐひとつの柱となっており、住民が積極的に防災訓練に参加している。

総合危険度はランク1（地震による建物倒壊や大規模延焼火災の危険性が非常に低い）、住宅敷地の標高は12～13mで、高潮による浸水被害の可能性は低い

※地震に関する危険性を、建物倒壊危険度、火災危険度に加えて、災害時活動困難度を加味し、ランク付けしたもの。

出典：東京都「地震に関する地域危険度測定調査結果（令和4年）」より作成



出典：しながわMAP区内標高図より

植生と自然要素

八潮の自然環境は、品川区内でも例をみない自然環境の良さがあり、住民も魅力だと感じている人が多い。一方で、管理状況や利活用には改善点があると感じている人が多い。

区域内の公園は、品川区全体の公園面積のうち10%を占めている。

八潮五丁目まちづくりガイドラインより

魅力

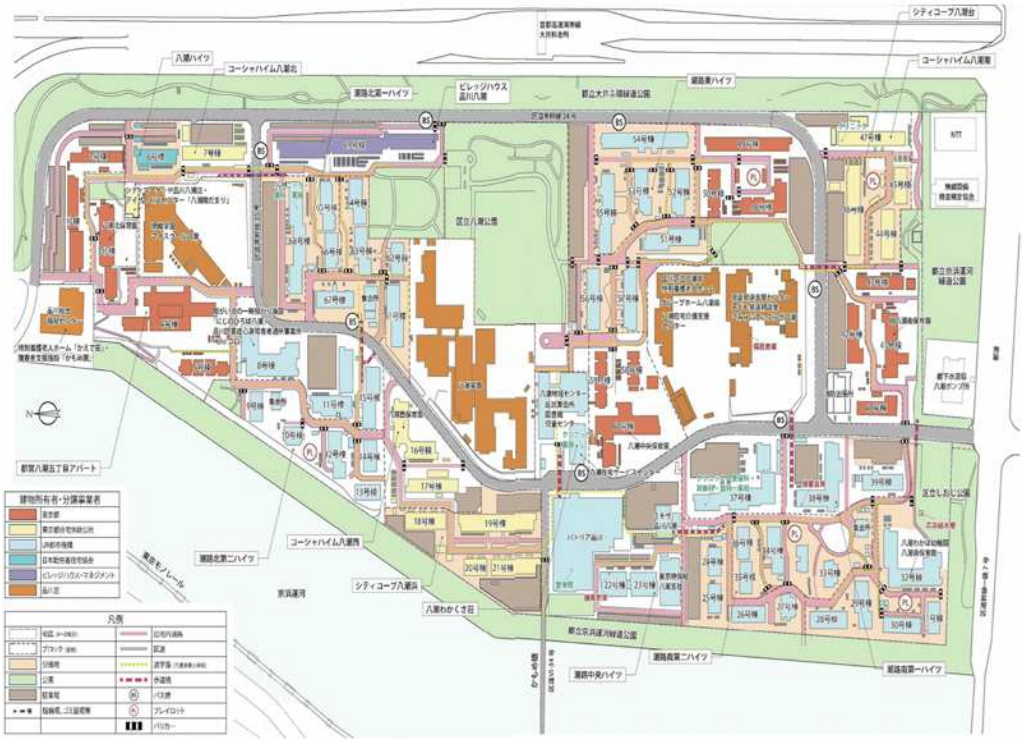
- 豊富な緑で四季を感じ、気持ちよく散歩することができる
- 運河に囲まれ、水辺を感じ、憩える場所を形成している
- 広い公園や広い屋外遊技場のある保育園で、のびのび子育てできる

課題

- 遊具の整備や落ち葉の清掃など、公園の適切な維持管理がされていない
- 仕事ができるスペースなど、公園の新たな利活用ができるとよい
- 公園や団地内は街灯が少ない場所があり、夜は暗い

施設の特徴と種類

八潮の建設物としては、団地（集合住宅）が占有面積のほとんどを占める。公園やスポーツ施設も多い。また、敷地内には、小中学校や幼稚園、保育園、医療機関がある。一方、商業施設の種類が非常に乏しい。



商業施設は、そのほとんどが「パトリア品川店」にあり、人口1万人超の地区内でスーパーやカフェをほぼ一手に担っている。

■商業施設 （令和5年4月現在）

店舗名	店舗の種別
パトリア品川店	食品スーパー・ホームセンター、ATM、保険代理店、クリーニング、宅配集配所、飲食店(パン、和食、そば、丼もの)、ドラッグストア、整骨院、歯科、100円ショップ、理容、美容、不動産仲介、フットサルコート(5コート)、コンビニエンスストア、クリニック・調剤薬局
シティマーケット品川八潮店	食品スーパー、歯科

アンケートでは、にぎわいについては、マイナス点。

商業施設や娯楽施設などがあり、にぎわいがある

-0.86

出典：品川区民アンケート結果報告（令和6年3月）

道路と生活動線の状況

八潮における生活動線は歩行者・自転車向けに確保されており、他地域にみられるような自動車によって占有された道路スペースは見受けられない。また八潮地区は徒歩で移動を完結させるためには広域に渡るため、子どもから高齢者まで自転車やスケートボードといったモビリティの活用があり、人々が活発に活動する時間帯には歩行者との住み分けが重要となってくる。

子どもたちが様々なモビリティを使用する様子。

07時

07:02 発 — 07:16 着 (14分)	都営バス [井９２] 大井町駅東口行	乗 降	途中の停留所
07:09 発 — 07:22 着 (13分)	都営バス [井９２] 大井町駅東口行	乗 降	途中の停留所
07:14 発 — 07:28 着 (14分)	都営バス [井９２] 大井町駅東口行	乗 降	途中の停留所
07:20 発 — 07:33 着 (13分)	都営バス [井９２] 大井町駅東口行	乗 降	途中の停留所
07:23 発 — 07:37 着 (14分)	都営バス [井９２] 大井町駅東口行	乗 降	途中の停留所
07:30 発 — 07:44 着 (14分)	都営バス [井９２] 大井町駅東口行	乗 降	途中の停留所
07:37 発 — 07:51 着 (14分)	都営バス [井９２] 大井町駅東口行	乗 降	途中の停留所
07:43 発 — 07:57 着 (14分)	都営バス [井９２] 大井町駅東口行	乗 降	途中の停留所
07:49 発 — 08:03 着 (14分)	都営バス [井９２] 大井町駅東口行	乗 降	途中の停留所
07:55 発 — 08:09 着 (14分)	都営バス [井９２] 大井町駅東口行	乗 降	途中の停留所

バスは品川駅・大井町駅・大森駅などとアクセスが良く、10分に1本以上の間隔でバスがある。

近年、シェアサイクル等の普及により、八潮地区内にポートが多くできている。

これまでの計画・まちづくり案

令和５年度、11月に策定された「八潮五丁目地区まちづくりガイドライン（考え方）」では、将来像として「水がきらめく、緑がかがやく、人がときめく、八潮」をもとに、取り組みテーマとして「環境・コミュニティ・にぎわい・安心安全」をいれている。

■まちづくりの目標

地区の魅力を伸ばし、課題を解決していくために、まちづくりの目標を定めます。

◎緑の豊かさと水辺の潤いを守り、感じられるまち
◎安全で安心な暮らしと快適な居住環境を有したまち
◎世代を越えたコミュニティとにぎわいがあふれるまち

■まちづくりの取り組みテーマ

まちづくりの目標の達成に資する4つの取り組みテーマを示します。

調査手法

定量調査（平成30年度）

数字的・量重視

「数」や「割合」を把握するための調査
（件数や比率など、計測データから情報を得る）

定量調査手法

- ネットアンケート
- 会場調査
- 郵送調査
- 来場者調査

対象

- 定量的に把握可能な客観的事実
- 利用者の認知率や購入意向など

データの種類：認知率や数値評価など
調査目的：現状把握、仮説検証

定性調査（令和6年度）

言語的・質重視

数値化することのできない「感情」や「理由」などを探るための調査
（言葉 / 表情 / しぐさ等から情報を得る）

定性調査手法

- グループインタビュー
- デプスインタビュー
- フィールド調査
- 行動観察調査

対象

- 定量的な把握が困難な主観的事実
- 潜在的な担い手も含む、人の思いや動機

データの種類：言葉
調査目的：原因把握、仮説構築

平成30年度「八潮地区に関するアンケート調査（住民アンケート）」実施結果より

八潮地区の魅力と課題

魅力

- 豊富な緑で四季を感じ、気持ちよく散歩することができる
- 運河に囲まれ、水辺を感じ、憩える場所を形成している
- 車の道と人の道が分離され、安全に散歩や通学ができる
- 団地からの眺望や運河沿いのロケーションがよい
- 自治会によるコミュニティがある
- 広い公園や広い屋外遊技場のある保育園で、のびのび子育てできる

課題

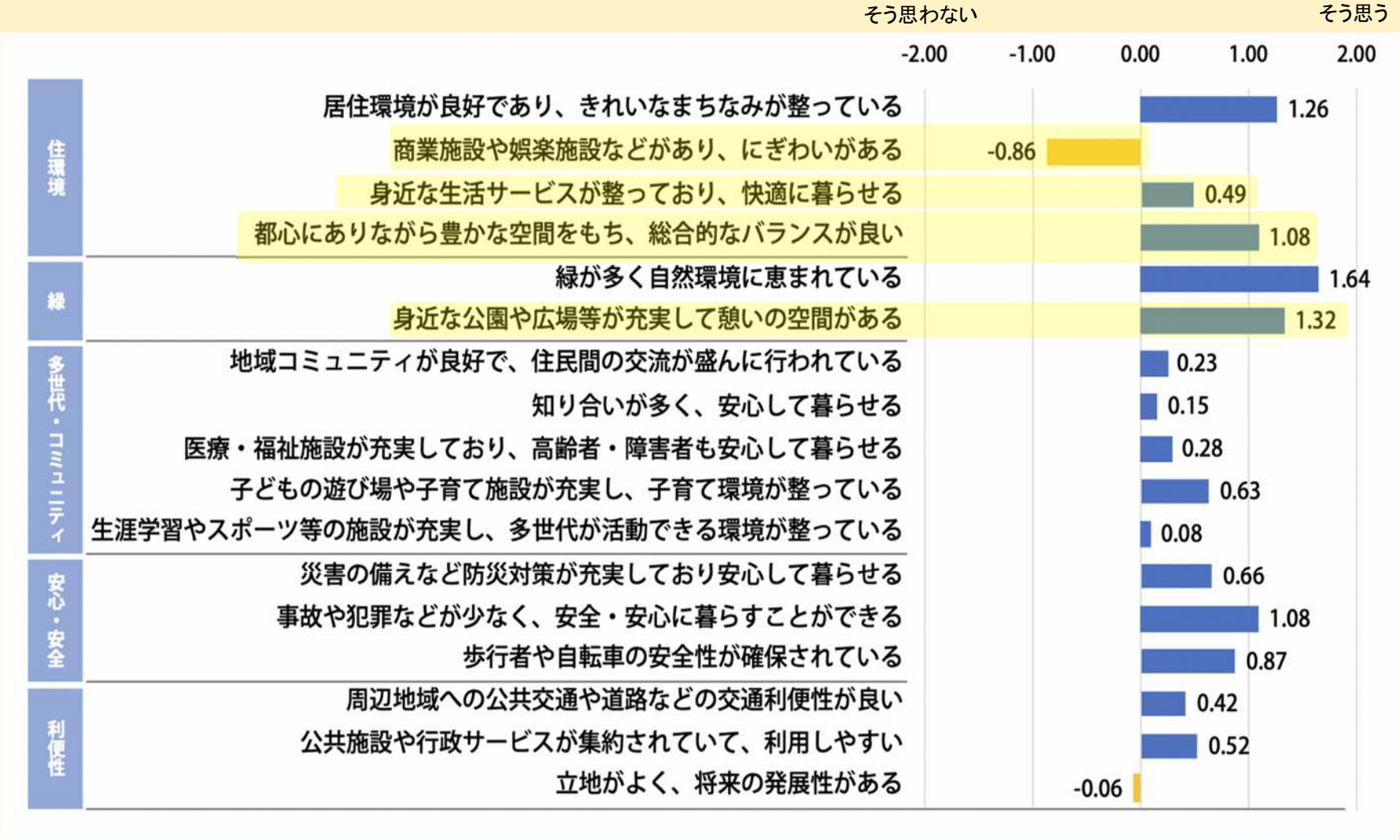
- 遊具の整備や落ち葉の清掃など、公園の適切な維持管理がされていない
- 仕事ができるスペースなど、公園の新たな利活用ができるとよい
- 公園や団地内は街灯が少ない場所があり、夜は暗い
- 医療、福祉だけでなく、お店や公共交通などの生活サービスの充実が必要
- 施設や住宅の老朽化を踏まえた改修や更新が必要な時期となっている
- さまざまな世代に対応した住まいの充実やバリアフリー化が必要
- 多様な人々や地域住民同士が交流できる屋内・屋外施設があるとよい
- 外国人居住者の増加を踏まえたルールやコミュニティの面での対策が必要

POINT

1. みどりがあり水辺がある自然豊かな場所がある一方で、維持管理が適切にできてない
2. お店や公共交通などの生活サービスの充実が必要
3. 外国人居住者を含む多様な人々や地域住民が交流できる屋内・屋外施設が必要
4. さまざまな活動を許容するカフェのような場所がない

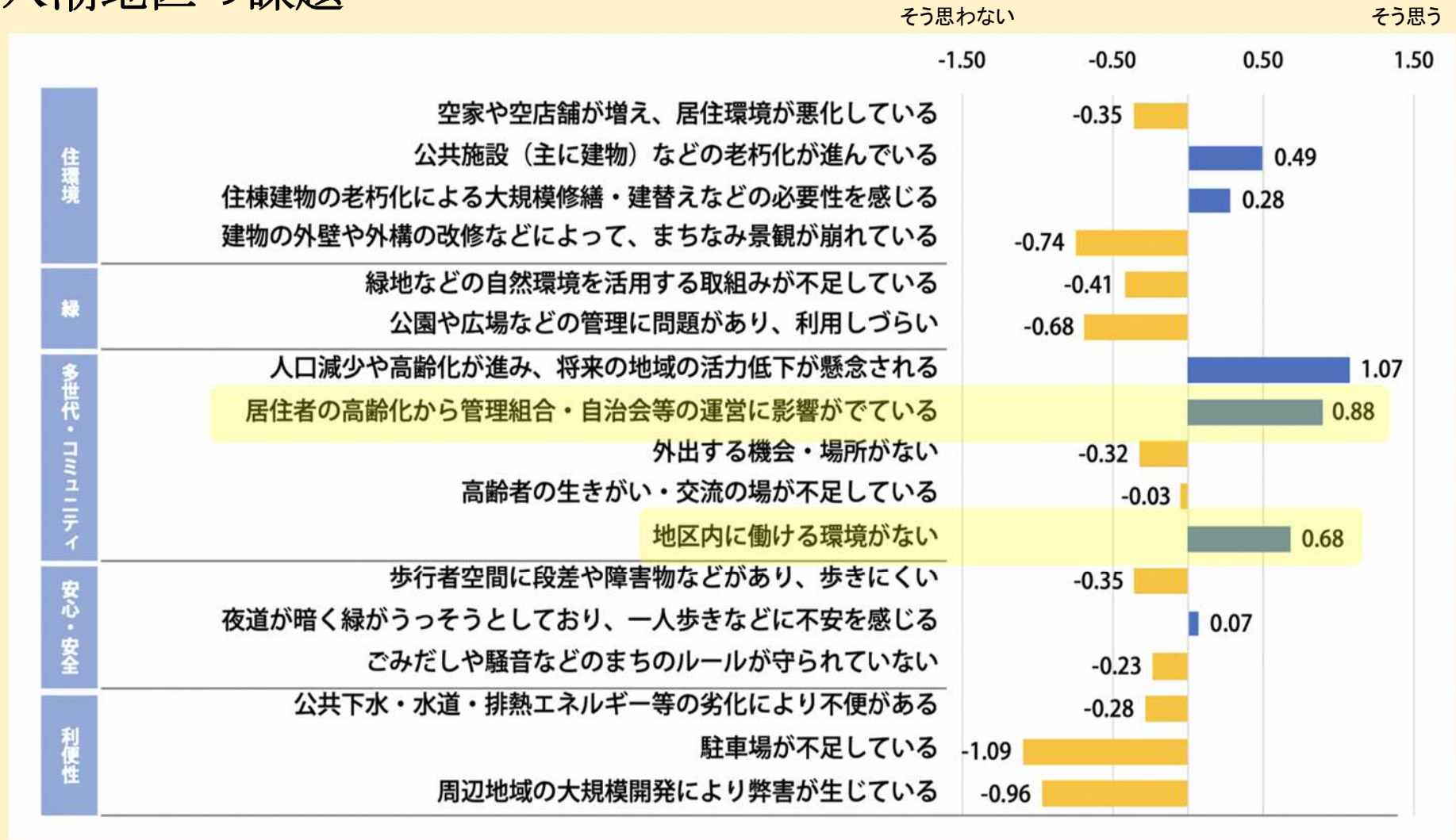
平成30年度「八潮地区に関するアンケート調査（住民アンケート）」実施結果より

八潮地区の魅力



平成30年度「八潮地区に関するアンケート調査（住民アンケート）」実施結果より

八潮地区の課題



リサーチ

八潮ではこれまで、「まちづくりガイドラインの策定」などで住民向けアンケートなどの調査が行われている。今回はまちづくりのニーズの深堀のためのインタビュー調査と、フィールドを客観的に観察するフィールドリサーチを行った。それにより、これまでの調査ではとりこぼされていた意見や、利用者の無意識の行動等を収集した。（調査期間：2024年6月～2025年2月）

インタビュー

八潮のまちづくりに関わりがあるひとを起点に、10代～70代の八潮に住む男女25名に1時間程度、インタビューをおこなった。

フィールドワーク/ヒアリング

八潮地区内でのこれからのまちづくりのきざしになるような活動、もしくは活動にとってどのような障害があるかを、客観的な視点から収集をおこなった。また、地区内の通行人等に簡単なヒアリング調査をおこなった。

※イラストはAIによる生成

インタビュー参加者（29名）

1	Hさん	60代	男性	地域団体 役員	16	Oさん	40代	女性	教育関係団体 役員
2	Mさん	50代	男性	地域団体 役員	17	Rさん	10代	男性	住民（八潮生まれ育ち）
3	Yさん	40代	男性	地域団体 役員	18	Kさん	10代	女性	住民（八潮生まれ育ち）
4	Aさん	40代	女性	教育関係団体 役員	19	Sさん	20代	男性	地域団体（八潮生まれ育ち）
5	Tさん	50代	男性	地域事業者	20	Hさん	40代	女性	住民（八潮外から転入）
6	Fさん	20代	男性	児童センターOB（八潮生まれ育ち）	21	Sさん	70代	男性	区内医療関係団体 役員
7	Mさん	30代	男性	地域事業者（八潮外から転入）	22	Hさん	40代	男性	文化活動団体（八潮育ち）
8	Mさん	30代	男性	地域で活動する住民（八潮生まれ育ち）	23	Yさん	50代	男性	教育関係団体 役員 （立会川生まれ育ち）
9	Yさん	70代	男性	地域団体 役員	24	Mさん	30代	男性	文化活動団体（八潮生まれ育ち）
10	Tさん	40代	女性	教育関係団体 元役員	25	Cさん	30代	男性	元住民（八潮育ち、転出）
11	Iさん	20代	男性	地域で活動する住民（八潮生まれ育ち）	26	Sさん	40代	女性	福祉関係団体 職員
12	Kさん	20代	女性	児童センターOB（八潮生まれ育ち）	27	Tさん	40代	男性	福祉関係団体 職員
13	Hさん	50代	男性	住民（青物横丁生まれ育ち、勤務）	28	Hさん	40代	男性	福祉関係団体 職員
14	Tさん	70代	男性	地域団体 役員	29	Mさん	40代	男性	福祉関係団体 職員
15	Mさん	60代	女性	住民（当初から入居）					

＊インタビューを受けた人に、次のインタビュー対象を紹介してもらう「雪だるま式サンプリング」にて実施

インタビューの意見とインサイト

インサイト 01 子どもや若年層が居場所がないと感じている

インサイト 02 あらゆる世代・人が利用する多機能型施設がない

インサイト 03 日常的に地域のつながりがうまれる場所がない

インサイト 04 ありとあらゆる人が生活できるまちへの変化が必要

インサイト 05 さまざまな活動を許容するオープンカフェのような場所がない

インサイト 06 地域団体同士の活動に隔たりがある

インサイト 07 新たな地域の担い手の関わりしろや新たな活動を実現する仕組みがない

インサイト 08 こみゅにてぃぷらざ八潮について：アクセスのしづらさ・利用のしづらさ

*インサイトとは、個人の行動や態度の深層にある無意識の心理・本音。

インサイト 01 子どもや若年層が居場所がないと感じている

01.01 親・大人の目線からは八潮が子育てがしやすく、子どもにもいい環境だという認識が伺える。

緑も多く子どもが遊ぶ環境もある。バスなど交通インフラもいいので住んでいる。（40代・地域団体 役員）

子育てしやすい街だと感じて移住してきた。八潮内ですでに2回引っ越した。（40代・住民）

八潮は安全、健全な場所だと思う。（40代・住民）

01.02 一方、八潮地区で育ってきた若者はサードプレイス・社交場がないという経験をしている。

八潮のシステムや環境を見ていると、若者が歓迎されているのかわからない時がある。（20代・児童センターOB）

若者、とくに中高生の居場所がない。コンビニの前が若者の（数少ない）溜まり場になっている。（20代・地域団体）

高校生の時にラウンジを使っていたら怒られたので外でたむろしていた（10代・住民）

遊ぶ場所が公園以外にない。公園で友達と話していると通報されることがあった。（10代・住民）

インサイト 01 子どもや若年層が居場所がないと感じている

01.03 勉強する場所がない。

勉強する場所がない、図書館も満員で入れない。（10代・住民）

（勉強については）塾が多い。図書館で勉強している中高生はあまり見ない。学生にとってのサードプレイスがない。中学生（自身）もそれには気づいている。（40代・教育関係団体 役員）

考察

緑が多く、子ども達が遊べる環境がある。子育てがしやすいといった親世代の意見とは裏腹に、子どもたち、特に中高生が八潮地区には自分達の「居場所がない」と感じている。居場所がないと感じるに至るまでには、友人と話しているだけでも怒られた・通報されたというような実際の経験にもとづく声もある。

公園・屋外での身体的な活動のほかにも屋内で学校や自宅以外のサードプレイスの不足に対しては子どもだけでなく親世代も認識している。図書館は用途が限定的、一方塾は有償で通っている学生しか使えないこともあり、広く中高生が集える場所に関する言及は見当たらない。

インサイト 02 あらゆる世代・人が利用する多機能型施設がない

児童館は子ども、福祉センターは高齢者、難聴児は明晴学園、外国人の子どもはインターと、混ざり合う機会が少ない（30代・地域で活動する住民）

考察

八潮地区では団地の他に学校や公園などがあるものの、それぞれの施設が単一的な機能を有するため、日常の動線や環境に異なる世代・人が交わる機会がない。

インサイト 03 日常的に地域のつながりがうまれる場所がない

閉鎖的な場所なので、八潮まつりが唯一の光。（20代・児童センターOB）

八潮まつりは八潮の人が一番つながるところ（20代・児童センターOB）

（地域が一体となってきたのは）祭りとかイベントごとだったのではないか（70代・地域団体 役員）

考察

「八潮まつりが唯一の光」という表現にも見受けられる通り、お祭りやイベントなど特別な催事以外には世代や所属を超えた地域のつながりが生まれる機会がハード・ソフトともに不足している。

インサイト 04 ありとあらゆる人が生活できるまちへの変化が必要

誰もが安心して、ここちよく暮らせるまちづくり

・高齢者（健康な人、不自由がある人）、障害者施設がいて、フラットな中で八潮は動いている。（60代・地域団体 役員）

・本当の意味のバリアフリーになるのでは、ありとあらゆる人が八潮の町の中で生活していく。もともとそういうふうに作った町なのだから。（60代・地域団体役員）

・今後は、地域に根ざした多様な拠点づくりや、交流を生む仕掛けの設計が必要であり、福祉とまちづくりの連携がより重要になっていくのでは。（40代・福祉関係団体　職員）

・今後は、地域に根ざした多様な拠点づくりや、交流を生む仕掛けの設計が必要であり、福祉とまちづくりの連携がより重要になっていくのでは。（40代・福祉関係団体　職員）

考察

八潮地区内には、特別養護老人ホームや重症心身障害者通所事業所、高齢者・障害者向けデイサービス、在宅介護支援センターなど、福祉系事業所が多数存在し、これを利用する住民も多い。

一方で、地区内の共用通路や、大型商業施設などに段差が多く存在するなど、施設・設備のバリアフリー化が不十分な現状がある。
また、多世代交流や障害者と健常者が交流できる場の不足など、多様性を理解するための場が不足している。

今後、一層の高齢化が進展していく可能性を踏まえ、多様性の理解、福祉とまちづくりの連携。

インサイト 05 さまざまな活動を許容するオープンカフェのような場所がない

カフェのようなオープンでパブリックなスペースの不足

仕事やプライベートで人が来るときに家の外で使えるカフェのようなものがあるといい。お金を払うので、ちゃんと営業しているお店が欲しい。（40代・住民）

八潮でフットサルをしていても、親はただ見ているだけ。サッカーの指導でスペインを訪問したとき、サッカーコートに隣接して必ずカフェがあった。サッカーをプレイしている子の親がカフェに寄る。カフェの収益がグラウンドの維持管理に使われるといううまい仕組みがある。そういった環境を考えていただけるとありがたい。（40代・地域団体 役員）

考察

サードプレイスの中でも（1）座る場所があり、（2）会話から読書・飲食まで幅広い日常のアクティビティを許容するカフェの設置については多くの対象者からその設置を望む声が聞かれた。

中でも八潮地区に特徴的なのは、こみゅにてぃぷらざに隣接するオープンカフェの設置への要望である。八潮には屋外の競技場が複数点在し、域外からも人が訪れる場所がある一方、その活動を支える関係者が長時間快適に滞在する仕組みがなく、機会損失となっている。

インサイト 06

地域団体同士の活動に隔たりがある

自治会同士、まちづくり団体の活動に隔たりがある（30代・地域で活動する住民）

（八潮地域としての自治・運営に）無理が生じている。連帯感を生まないと前に進まない。（50代・地域団体 役員）

タテ割りになっていて、つなぎようがない。（50代・地域団体 役員）

自治会に参加すること自体が億劫だと感じている人もいる。（40代・地域団体 役員）

（地域の活動や自治会について）効率のいいアナウンス方法はないのかなと思う。みんな来ないのではなく、うっかり来れないのではないか。（40代・住民）

（海外の方について）自治会総会をやったときに未加入の海外の方がいた。文化的にあまり理解されないところもあるが、得意を活かすかたちで関わってもらえればいいと考えている。その人は加入してくれた。（20代・地域で活動する住民）

インサイト 06

地域団体同士の活動に隔たりがある

考察

八潮地区のまちづくりを担うのは誰なのか。

これまで八潮を盛り立ててきた自治会だが、高齢化や人口減少、新たな住民の増加やコミュニケーション手段の変化とともに、住民全体の意見を取りまとめることが難しくなっている。

自治会関係者・非自治会員ともに複数存在する自治会同士の意見の相違や、まちづくり全体の一貫性がないことに対する不安・不満を指摘していた。

またコミュニケーション手段の相違から周知が行き届かない、日本語の理解が不十分な海外からの人など、自治会という組織と役割に慣れない住民の存在も見受けられた。

インサイト 07 新たな地域の担い手の関わりしろや新たな活動を実現する仕組みがない

八潮全体の課題として、70代の元気な方がいるが、40代50代がうまく自分の希望を反映できていない。（40代・教育関係団体 元役員）

次世代に受け継ぐためにはまず若者たちが最初の一歩を踏み出さなければならない。新たなイベントをつくりたいが関係各所に話を通すのが難しい。（20代・地域団体）

何かをやりたい人たちがいても、熱量があるうちに届けるべきところに届けられないことが多いように感じる。場所、チャンネルが必要。（20代・児童センターOB）

若年層がまちづくりや自治会にどう関わるのか、八潮まつりにどうやったら関われるのか、わからない。（20代・地域で活動する住民）

考察

ヒアリング対象者に共通するのはいずれも八潮地区に対する思い入れや地域に対する愛着・愛情である。

しかし、ヒアリングからは若年層のみならず、40代・50代からも自分の希望が反映されない、という意見が伺えた。

自治会活動の隔たりや限界が指摘される一方で、こうした新たな世代もまた地域に関われない・意見がとどかないと感じる状況がある。

インサイト 08 こみゅにてぃぷらざ八潮について：アクセスのしづらさ・利用のしづらさ

（こみぷらの今後について）児童センター以外で若者たちが集まって何かを企画する部屋があると良い。（20代・児童センターOB）

（こみぷら）外見も古く入りづらいかもしれない（40代・教育関係団体 元役員）

若い人のこみぷらの利用を促すためにも、少しお金はかかってもオンラインやアプリなどで完結する方がいい。若い人は電話や書類を避ける傾向がある。（20代・児童センターOB）

気軽に借りれるとしたら利用価値があると思う。スマホで予約できるようになれば、利用率は飛躍的に上がるのではないか。（40代・住民）

考察

小学校の跡地を利活用するかたちでうまれたこみゅにてぃぷらざは、八潮地域の人々の主だった動線からアクセスしづらい状況にあり、結果として利用者を限定する結果となってしまっている。

また利用者の中には施設の利用申請にオンライン化を望む声も多く、施設が活性化されるためには物理的な施設に加えてデジタル環境の整備も必要だという意見が見受けられた。

フィールドワークからみえた まちや施設の空間の課題

課題 01 多世代、多文化が共生する場の不足

- 集まる場所がない
- 特定の人、相談したい人など限定的な利用
- 情報案内が日本語のみ・ネットで一覧がみれない

課題 02 1人または人々と快適に過ごす公共の場の不足

- 快適で過ごしやすい座れる場所（屋根がある等）
- 移動以外の過ごし方を許容する空間がない
- 移動手段がさまざまあり、移動手段とともに休憩できる

課題 03 中高生のニーズを満たす場所がない

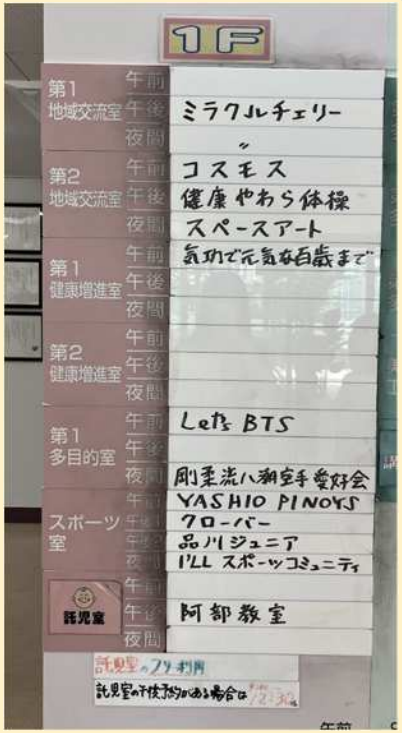
- 中高生の学習の場がない
- 中高生は仲間と集うサードプレイスがない

課題 04 施設ごとの課題点

- こみゅにてぃぷらざ八潮…認知度の低さ、機能が限定的
- 地域センター…使用者が限定的

課題 01 屋内で多様な人が集う場がない

＃集まる場所がない　＃情報案内が日本語のみ



課題

「ここはフリースペースではなく、あくまでも待合スペース」

こみゅにてぃぷらざ入ってすぐ1階エントランススペースでは、その日使用するグループの名前などが掲示されている。

エントランス部分は、管理者曰く「エントランスはあくまでも使用する人の待合スペース」らしく、昔この場所がにぎわいすぎて、窓口の受付業務が滞ったことを教えてくれた。入ってすぐに「どういう理由でこの場所を訪れたか」を窓口の人が確認してくれる。

こみゅにてぃぷらざ八潮　エントランス

課題 01 屋内で多様な人が集う場がない

＃集まる場所がない　＃情報案内が日本語のみ

課題

打ち合わせは禁止。それでも荷物を置いて場所の取り合いになることも

お昼時になると、お弁当を持ってきた人などでにぎわうラウンジ。しかし、打ち合わせ禁止、荷物置き禁止の張り紙が。こういった休憩スペースが少なく、とりわけグラウンドの観戦にきたひとが荷物をおいて場所を取るという事案が発生し、このような張り紙にいたったらしい。放課後には、ここで宿題をする小学生の姿も。

こみゅにてぃぷらざ八潮　ラウンジ

課題 01 屋内で多様な人が集う場がない

#集まる場所がない

パトリア品川のフリースペースは、車椅子の方をも含めた5人組のおしゃべりの場、ひとりでパソコンで作業する人、子連れで休憩する親子、さまざまなひとが使っているのがみえた。(飲食店の営業は20時まで)

可能性

おしゃべりの場、ワークスペースなどさまざまな用途に活用されている。

品川パトリア

課題 01 屋内で多様な人が集う場がない

#集まる場所がない

集まる場所がないとはいえ、毎日ランチを提供する「元気食堂うさぎ」は、住民が知り合う貴重な場となっている。ふらっとご飯を食べ、知り合いになる人たちもいるという。八潮のまわりで採れたものを持ってきてくれる常連さんも。八潮内および周辺地区へのお弁当配達やケータリングにも対応する。また、子どもが参加する味噌づくりイベントなども行っている。

可能性

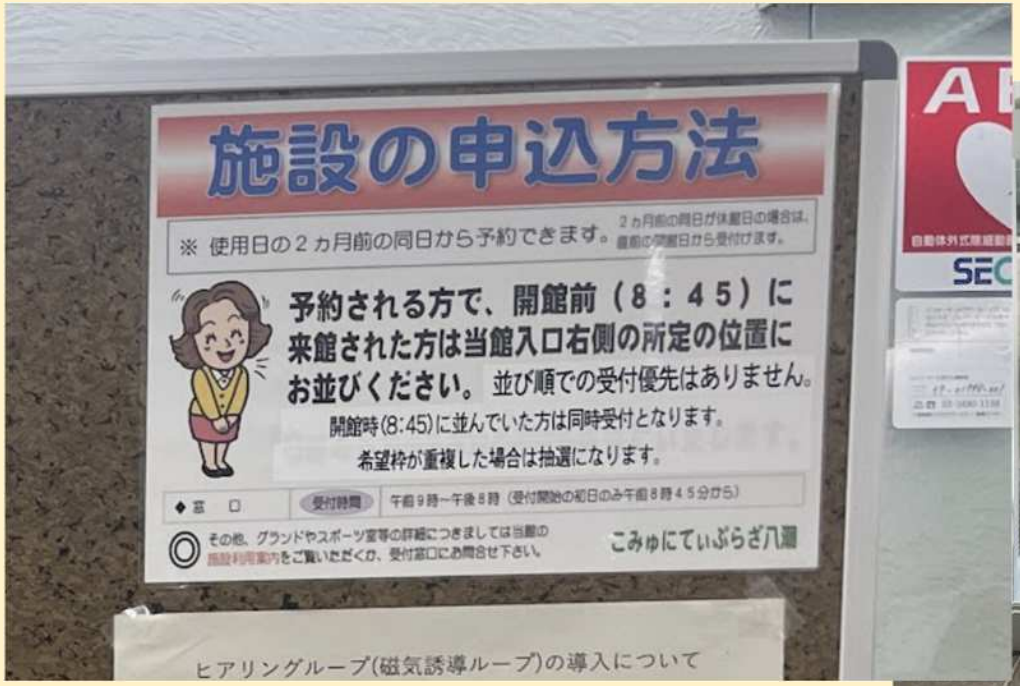
「お店があまりないから、ここで知り合いになっていく人も多いんですよね。みんないろいろ持ってきてくれて。」

住民に人気の「元気食堂うさぎ」の営業時間は10:00～17:00、居酒屋として営業する「黒うさぎ」の営業時間は第2・第4金曜日17:30～20:30の月2回となっている。住民同士の交流の場となっているが、サードプレイスとしての機能としては不足する部分がある。

こみゅにてぃぷらざ八潮　元気食堂うさぎ

課題 01 屋内で多様な人が集う場がない

＃特定の人、相談したい人など限定的な利用



課題

予約しないと使えない状況

こみゅにてぃぷらざ八潮

課題 02 屋外で快適に過ごせる場がない

＃移動以外の過ごし方を許容する空間がない

体育館・グラウンドは予約で終日いっぱいになるくらい人気。だが、こみゅにてぃぷらざの利用者に聞くと、「予約しないといけないのはハードル。ストリートバスケのようなものがあったら楽しい。」（インターナショナルスクールに通う小学生）というようなもっと気軽に運動できるといいという意見もあった。

課題

予約すれば使える場所はあるが、ストリートバスケのように気軽に使える場所がない

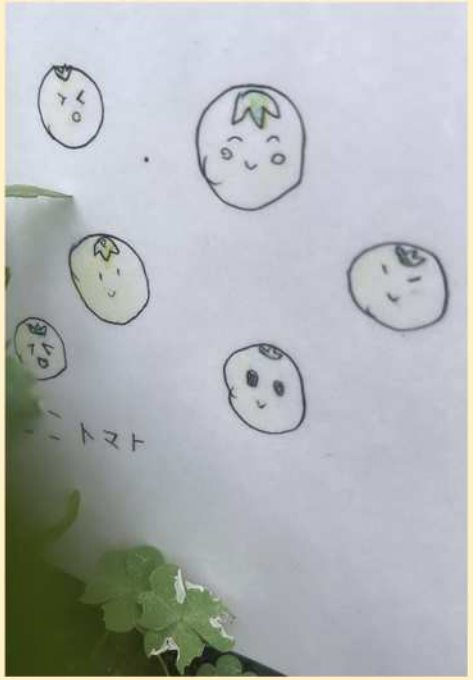
こみゅにてぃぷらざ八潮　体育館

課題 02 屋外で快適に過ごせる場がない

＃移動以外の過ごし方を許容する空間がない

可能性

花壇などは畑にして楽しむ場所が現れている



八潮のまち全体

課題 02 屋外で快適に過ごせる場がない

＃移動以外の過ごし方を許容する空間がない

課題

移動していないときの駐輪スペースは問題になっている

八潮のまち全体

課題 03 中高生のニーズを満たす場所がない

＃中高生の学習の場がない

八潮の児童センターは非常に充実しているが、一方で、児童センターに行くのは小学生までというイメージがある人が多く、中高生の部屋もあるが、あまり活用されていないという。実際に、放課後の時間にいくと、この場所まで小学生が走り周っている様子が見受けられ、ここで勉強をするといった環境ではないように感じた。

課題

児童センターは、小学生までのイメージが強く、中高生の部屋はあるが、あまり使われていない

児童センター　エントランス

課題 03 中高生のニーズを満たす場所がない

＃中高生の学習の場がない

児童館の3階にある図書館は、本は充実しているようだが、座って本を読めるスペースがあまりなく、勉強などをしている人は見受けられない。児童センターと屋上と空間を共有しているので、放課後の時間はややうるさく、静かに本を読むことや勉強するにはやや難しい。

課題

図書館で勉強できるスペースがない
屋上の広場と接続していてうるさい

課題 03 中高生のニーズを満たす場所がない

#次世代が仲間と集うサードプレイスがない

1階のエントランスから少し離れた自動販売機前のスペースでは、午前中はこみゅにてぃぷらざを利用している団体（インターナショナルスクール）の5人組が、待ち時間に勉強をするかたちで利用していた。また、放課後になると中学生とみられる女子の二人組が動画を見て過ごしていた。入り口よりも一見、人目につきすぎないのが居心地がいいのかもしれない。

可能性

待ち時間、放課後時間で若い世代が使っていた場所

こみゅにてぃぷらざ八潮　ラウンジ

課題 03 中高生のニーズを満たす場所がない

＃小学生まではかなり楽しく快適な八潮

課題

小学生までは遊び場もあって
とても楽しいけれど....

八潮学園前
児童センター

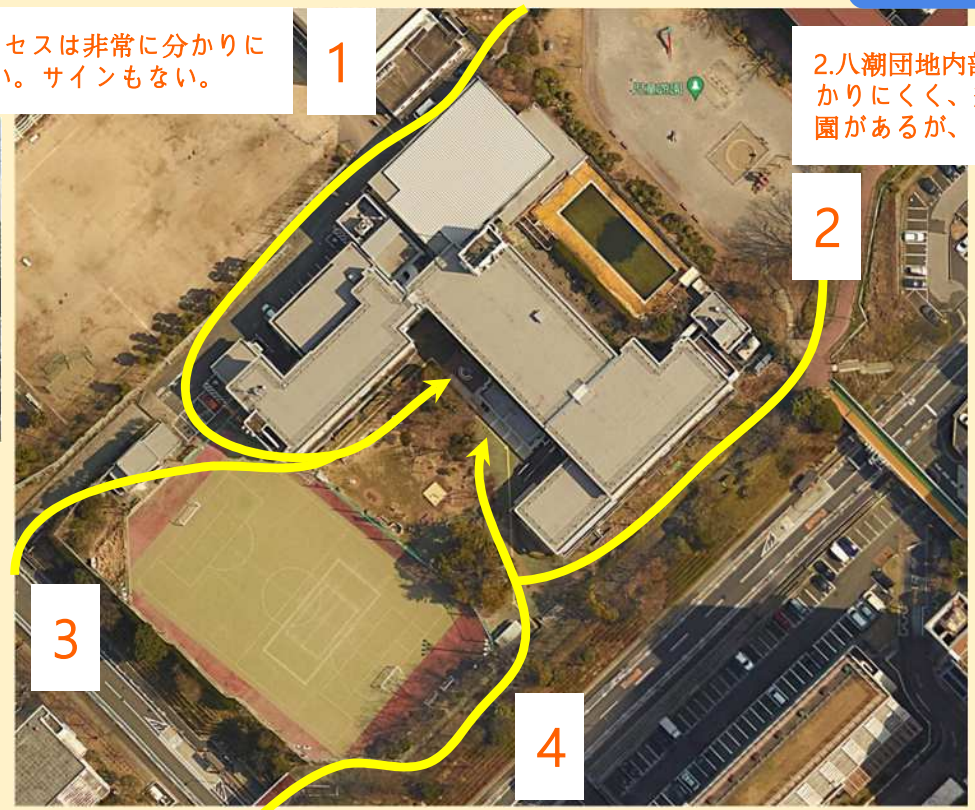
課題 04 施設ごとの課題点

こみゅにてぃぷらざ八潮

課題

アプローチのデザインがよくない

1.八潮団地内部（歩道）からのアクセスは非常に分かりにくく、細い道を通らないといけない。サインもない。



2.八潮団地内部（歩道）からのアクセスは非常に分かりにくく、細い道を通らないといけない裏手に公園があるが、まったくつながりを感じない。

3.八潮の中心部（パトリア・地域センター）からもっとも近い動線。サインは雑草により見えにくい。道も歩道ではなく車道であり、この先に場所があるように感じにくい。

こみゅにてぃぷらざ八潮

4.八潮外（バス停八潮南）から来るともっとも近い道。サインが小さくわかりにくい。到着しても門が閉まっている。

課題 04 施設ごとの課題点

こみゅにてぃぷらざ八潮

2 階の協働推進室内にオープンスペースがあるが、基本的に鍵がかかっており、使用しにくい状況である。

課題

使われていない場所がある。

課題 04 施設ごとの課題点

こみゅにてぃぷらざ八潮

スポーツ室やグラウンドなど、運動系の施設の利用率が高い一方で、入浴施設が無い。更衣室も男女兼用の１室のみ。

課題

多様な利用者を呼び込むための設備が整っていない

■フロアガイド

階数	施設名等
3 階	パソコン講習室、講習室、音楽室
2 階	協働推進室（交流スペース）、講習和室、美術工芸室、第２～４多目的室、印刷室
1 階	受付、地域交流室、第１多目的室、健康増進室、スポーツ室、託児室、喫茶コーナー、ラウンジ
屋外	アスレチック広場・グラウンド

こみゅにてぃぷらざ八潮

課題 04 施設ごとの課題点

地域センター

品川区の行政手続きなどを行う事務室の入った1階の地域センター。
エントランス部分は、ベンチがひとつしかなく、ゆったりできる雰囲気ではないが、
常時座っている人を見かけ、座れる場所のニーズを感じる。

課題

ベンチがひとつしかない
「コミュニティホール」

地域センター

令和6年度第一回八潮まちづくりセミナーWS（2024年9月10日）

・サードプレイス
カフェ（内職カフェ、本・CD（レコード）等色々カフェ）、居酒屋、八潮で同窓会ができるところ、コインランドリー（カフェ併設も）、シェア食堂・農園・オフィス・ふろ、カラオケ、朝8時より前または午後9時以降の施設

・八潮まつりや街ぐるみのイベントや活動
お祭り、街全体のイベント、運動会（若手からも発言あり）、マラソン、音楽フェス、野外音楽フェス、バードウォッチング、BBQ、つり、キャンプ場施設、カジノ

・ 地域活動
桟橋、八潮の人のため（防災）、若者が地域活動の企画をする

・公共施設、 こみぷらの活用法
地域センターには人が来るがこみぷらには来ない、施設の有効利用、品川区防災拠点、ジム施設、プール（の活用）

・八潮のまちや歴史
駅（の計画）、歴史・都市伝説、神社のようなもの、多世代交流、

・子どもたちの居場所や活動
公園、虫取り大会、八潮自然探検

令和6年度第二回八潮まちづくりセミナーWS（2024年11月30日）

1980年～2008年

・入居当初は、道が整備されておらず夜は真っ暗だった
・緑道は鬱蒼としており、暗かった
・現在のような森林はなく、植樹されたばかりで背の低い木々ばかりだった
・幼稚園や小学校が多く存在した
・自然が充実しており、ハゼ釣りができた
・運河にかかる橋から、富士山や東京タワーが見えた
・さまざまな鳥や蝶々が観察できた

2008年～現在

・八潮学園にビオトープが整備され、ホタルも集まるようになった
・カルガモ、タヌキなどの野生動物が多く見られる
・さまざまな樹木がある
・倒木が多い
・ハゼ釣りやザリガニ釣りを楽しめる
・鳥のための巣箱が設置されている
・運河にかかる橋のイルミネーションが綺麗だが、富士山や東京タワーは見えなくなった
・緑道公園や柿の木、ミカンの木など多くの自然がある

リサーチのまとめ

インタビューのインサイト

- ●あらゆる世代・人が利用できる多機能型施設がない
- ●日常的に地域のつながりが生まれる場所がない
- ●ありとあらゆる人が生活できるまちへの変化が必要
- ●さまざまな活動を許容する場所がない
- ●若年層が「居場所がない」と感じている
- ●地域センター・こみぷらのアクセスの利用しづらさ
- ●地域団体同士の活動に隔たりがある
- ●新たな地域の担い手の関わりを作る仕掛けがない

平成30年度アンケートからの課題と魅力

- ● 多様な人々や地域住民が交流できる施設が必要
- ● 日常生活から離れ、快適に過ごせる場所がない
- ● 公共施設の老朽化対応や活用に向けた検討が必要
- ● 自然が豊かな一方、維持管理が適切にできてない

フィールドワークからの課題

多世代、多文化が共生する場の不足

- ●（建物）あらゆる人が活動できる地域コミュニティ拠点がない
- ●（機能）各空間が単一目的での利用・機能に限定されている
- ●（情報）地区全域の多様な属性の住民に情報が届いていない

一人または人々と快適に過ごす公共の場の不足

- ● 快適に座り過ごせる空間が不足している。
- ● 街路網に余白がなく、移動だけの場になっている。

若者の集う場所がない

- ●（中高生）無料の学習の場がない。
- ●（若年層）成長によって変化する子どものための空間がない

こみゅにてぃぷらざ八潮ならびに地域センターの課題

- ●（アプローチ）人を寄せ付けない外観
- ●（閉鎖性）外部から活動の様子が窺い知れない窓設計
- ●（利用）日常的に利用されていない空間
- ●（機能）入浴施設など、災害時も想定した施設の多機能化

23項目に集約したリサーチ結果を、6種に分類

分類

- ● 交流の場について
- ● ゆったりと過ごす場について
- ● 若者の集う場について
- ● 公共施設の活用について
- ● 新たな地域活動について
- ● 自然環境について

八潮みらいコンセプト

コンセプト＝リサーチ結果を踏まえ、持続可能な地域活動の実現に向けた今後の方向性を定めるもの

分類

- 交流の場について
- ゆったりと過ごす場について
- 若者の集う場について
- 公共施設の活用について
- 新たな地域活動について
- 自然環境について

**6種のリサーチ結果を実現する、
４つのコンセプトを作成**

コンセプト

01　多様なひと同士のゆるやかなつながりづくり

偶発的なつながりが生まれるような、無理のない交流の場をつくることが、地域の豊かな関係基盤を生み出す。

02　安心して健康でいられる居場所づくり

健康づくりや防災、ひとりでゆったり過ごすなど、多様なニーズにこたえるための、多機能な施設が求められる。

03　次世代の活動が育まれる環境づくり

若年層には地域に貢献したいという意思があるものの、必ずしも受け止められていない状況を変える必要がある。

04　持続可能な自然環境づくり

豊かな自然を日常的に享受できる環境を知り、住民が主体的に維持管理にもかかわる機会をつくる。

キャッチフレーズ

キャッチフレーズ＝４つのコンセプトが実現する八潮地区の将来像をワンフレーズで表現

コンセプト

- 01 多様なひと同士のゆるやかなつながりづくり
- 02 安心して健康でいられる居場所づくり
- 03 次世代の活動が育まれる環境づくり
- 04 持続可能な自然環境づくり

キャッチフレーズ ４つのコンセプトを束ねるワンフレーズを作成

人、自然、未来がつながる新しいふるさと 八潮

ビジョンの作成

ビジョン＝コンセプトの具体化に向けた施設・活動の例示。これらの実施によりキャッチフレーズを実現

	01 多様なひと同士のゆるやかなつながりづくり	02 安心して健康でいられる居場所づくり	03 次世代の活動が育まれる環境づくり	04 持続可能な自然環境づくり
Activities 活動例	音楽イベント アート / フードフェア	多世代・多様な人との交流 / ご近所同士の交流	集中して勉強する / プロジェクトを企画・立案する	地産食品の生産・活用 / 脱炭素の推進
Facility 施設例	カフェ コワーキングスペース / シェア食堂	スポーツジム スタジオ スパ / （災害も想定した）多機能な公共施設 医療施設	次世代が交わり・企画する空間 / 地域活動コンシェルジュ	コミュニティ農園 / 太陽光発電・熱供給システムの活用

キャッチフレーズ

人、自然、未来がつながる新しいふるさと 八潮

八潮地区の未来イメージ

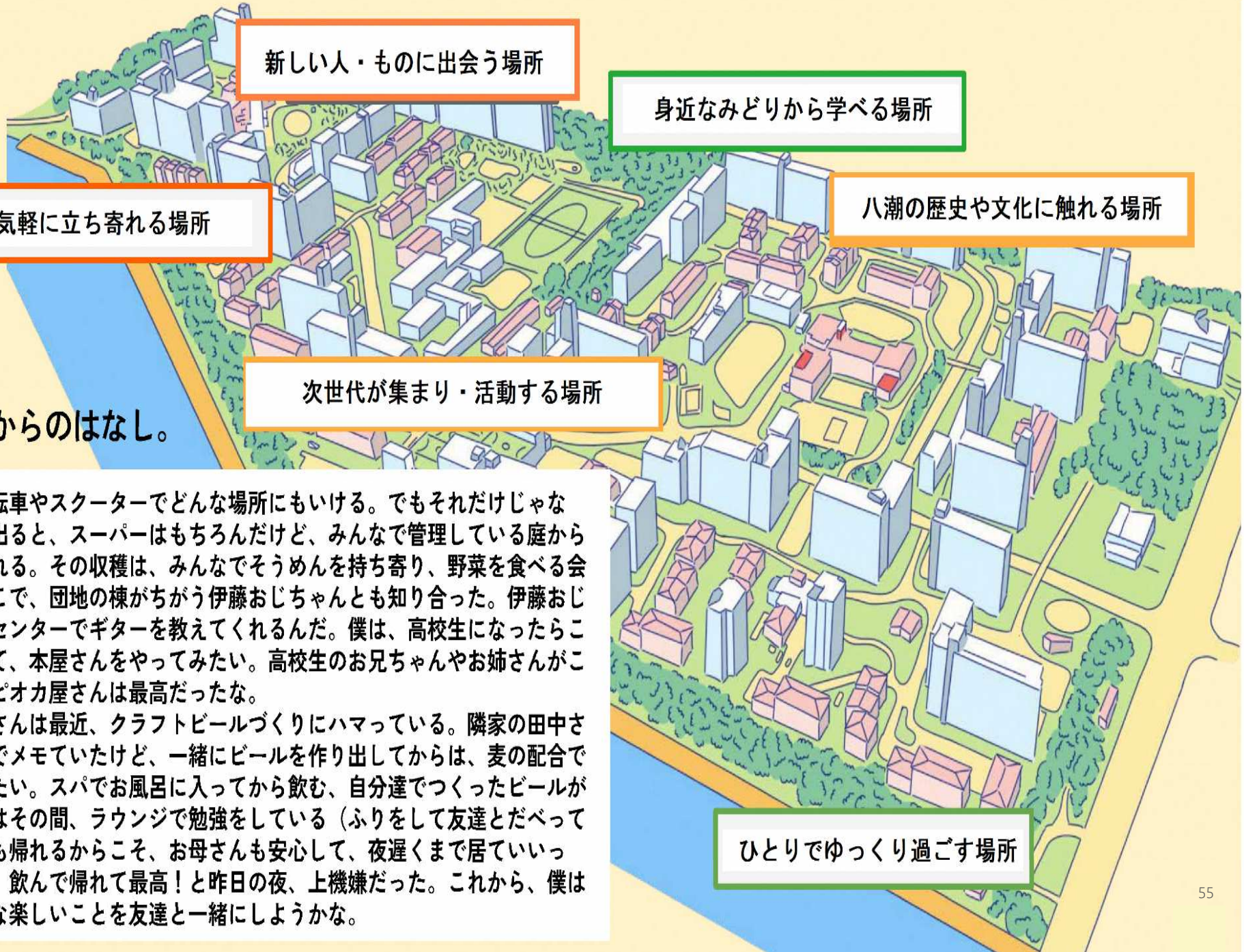
#コミュニティ農園

#屋外ミーティングスペース

#カフェ

#ローカルブルワリー

※イラストはAIによる生成



八潮のこれからのはなし。

このまちは、自転車やスクーターでどんな場所にもいける。でもそれだけじゃない。団地を一歩出ると、スーパーはもちろんだけど、みんなで管理している庭から新鮮な野菜が採れる。その収穫は、みんなでそうめんを持ち寄り、野菜を食べる会があるんだ。ここで、団地の棟がちがう伊藤おじちゃんとも知り合った。伊藤おじちゃんは、児童センターでギターを教えてくれるんだ。僕は、高校生になったらここで企画を考えて、本屋さんをやってみたい。高校生のお兄ちゃんやお姉さんがこ前やっていたタピオカ屋さんは最高だったな。
そうそう、お母さんは最近、クラフトビールづくりにハマっている。隣家の田中さんとはゴミ出しでメモていたけど、一緒にビールを作り出してからは、麦の配合で意気投合したみたい。スパでお風呂に入ってから飲む、自分達でつくったビールが最高だとか。僕はその間、ラウンジで勉強をしている（ふりをして友達とだべっている）。歩いても帰れるからこそ、お母さんも安心して、夜遅くまで居ていいって。お母さんも、飲んで帰れて最高！と昨日の夜、上機嫌だった。これから、僕はこのまちでどんな楽しいことを友達と一緒にしようかな。

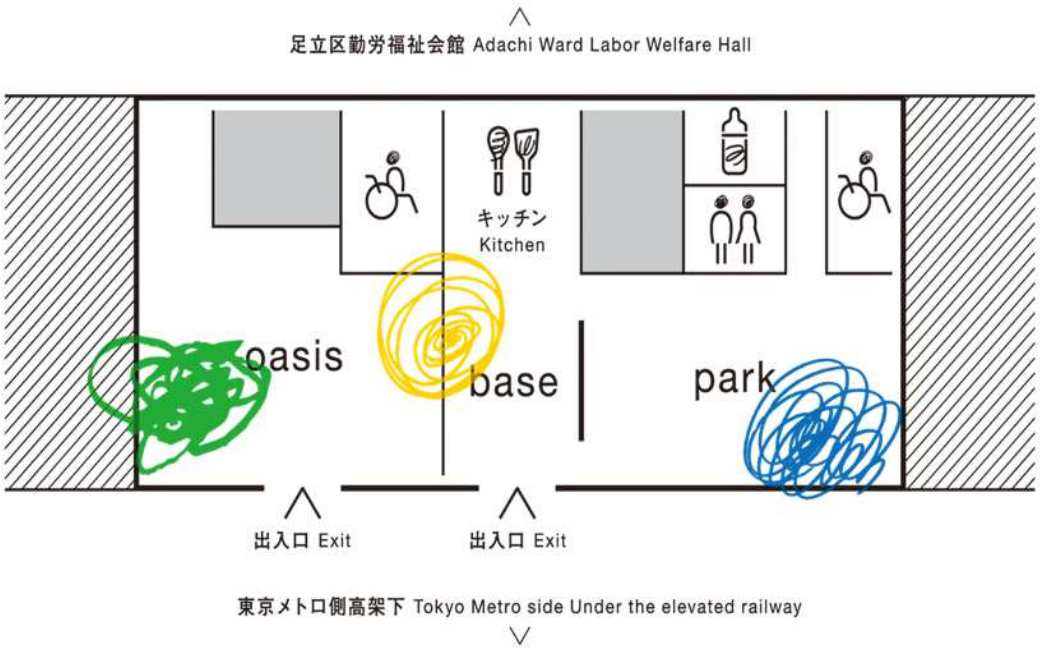
01 多様なひと同士のゆるやかなつながりづくり

やってみたいを応援する・相談する場

#チャレンジする場　#空間を分ける

あやセンターぐるぐる　JP

足立区が20年近くシャッターが閉まっていた綾瀬駅西口高架下につくった、SDGs推進センター。あやセンターの特徴として、やってみたいをみつけるライブラリー・本屋さんである「oasis」、やってみたいを応援する相談窓口の「base」、やってみたいを叶える「park」の３つに空間が分かれており、ここから多くの市民のチャレンジが生まれている。



01 多様なひと同士のゆるやかなつながりづくり

デンマークの公民館の新しい取り組み

ABSALON DK #公民館 #若者 #食 # マーケット

デンマークのコペンハーゲンにある公民館のアブサロンでは、若者、家族が集うさまざまなイベントが開かれている。
古い公民館を改修したこの場所は、フリーマーケット、卓球、食卓とさまざまなひとが集う場所になっている。

02 安心して健康でいられる居場所づくり

奈良県生駒市のゴミ捨て場が集いの場に

こみすて JP

#エントランス #資源ごみ

誰しもが行うゴミ捨てに着目し、資源ゴミステーションの場所を、いろんな資源を共有できる場所にした事例。まちのリユースセンターなども設けることで、ゴミ捨て場から創造の場になっており、住民がやりたいことを実現する場に。なにもなかった道に、エントランスをつくり、奥へと誘因したストリートの作り方も印象的。

before

after

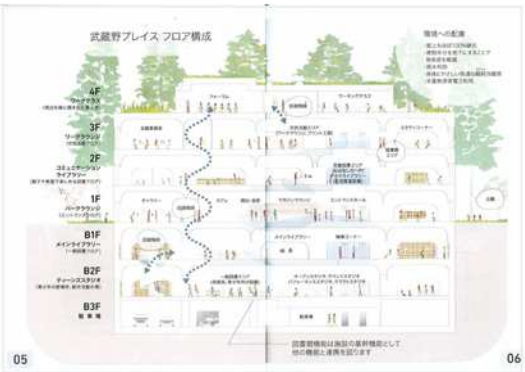
03 次世代の活動が育まれる環境づくり

だれもが使い安い場所を目指した市民の場

武蔵野プレイス JP

#図書館 #市民との協働 #ユースセンター

「自立した地域社会を生み出すためには、十分な情報の提供が不可欠。多くの部分がデジタル化され、個人がコミュニティから遊離しやすい社会になると、これまで以上に公共施設の役割が重要になる」ということを信念に、誰もが来やすい仕掛けをつくった図書館。10年以上、議論を市民と一緒にしてきた。中高生の居場所であるスタジオラウンジは、ショッピングセンターの幼児や小学生からは分けられた空間などをつくっており、多くの中高生が利用している。



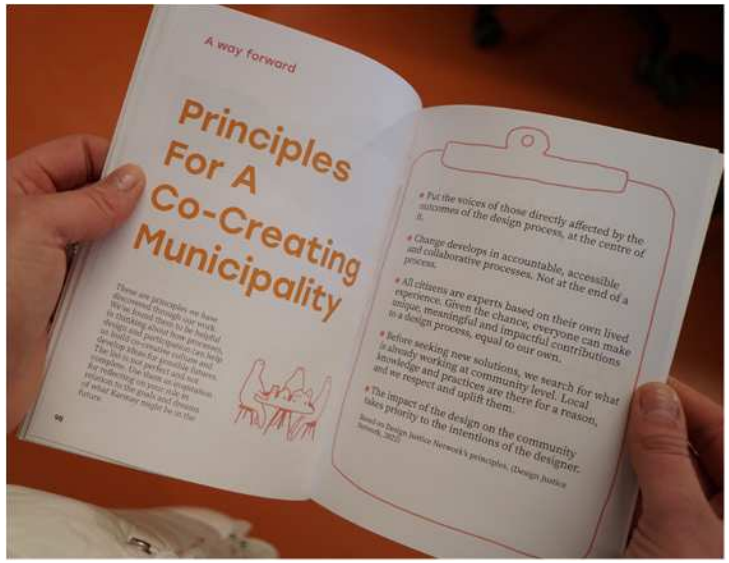
03 次世代の活動が育まれる環境づくり

ノルウェーの小さな町でティーンエイジャーが自分達でつくる居場所

YOUTH CENTER NO

#中高生 #居場所 #自分でつくる

ノルウェーの北西部の小さな町・カルメイは、人口４万人。漁業が主たる産業で若者はバイトに奔走するため、居場所のなさや好きなことを探求する場の不在、男女の雇用格差などの問題がある。町はデザインの学生と地域のティーンに委託。共同で空き物件を改装しユースセンターを設置している。



04 持続可能な自然環境づくり

下北沢の駅前で、畑や公園でつくったドリンクショップと野原

のはら/ちゃや JP

#野原 #畑にあるものでつくる

下北沢の駅前の野原の管理をするシモキタ園藝部の拠点。下北沢の線路跡地の管理を行い、そこで採れるハーブなどからつくるドリンクや剪定枝の販売を行う。

学びの場・市民との協働プロセス

開館までに17年。市民との積み重ねでこれからも使い続けられる場所をつくる。

DOKK1 DK

#図書館 #市民との協働

デンマークの第二都市オーフスにある図書館。この図書館の完成までに要した年月は実に17年。そのうち13年は、市民をはじめとするさまざまなステークホルダーとの対話と合意形成に費やされた。そうしたステークホルダーとの積み重ねにより、2015年に開館してからも多くの市民が実際に使う場になっている。特徴としては、図書館をコミュニティ・センターと位置付けイベントなどをやりやすい仕掛けを空間にもサービスにも取り入れている。イベントは、月平均80-100以上開催されており、そのうち60%以上が市民が自ら行うイベントだという。

茨城県取手市　団地

いこいーの＋Tappino　JP

#団地　#住民ポテンシャルの可視化　#アート

茨城県取手市の団地で取り組む、市民と取手市、東京芸術大学の三者が共同でおこなっているアートプロジェクトのひとつ。**住民の「とくい」を預ける仕組みで、可視化し、それを他の住民が引き出しなにかとくいをお願いできる仕組み、「とくい銀行」などがある。**

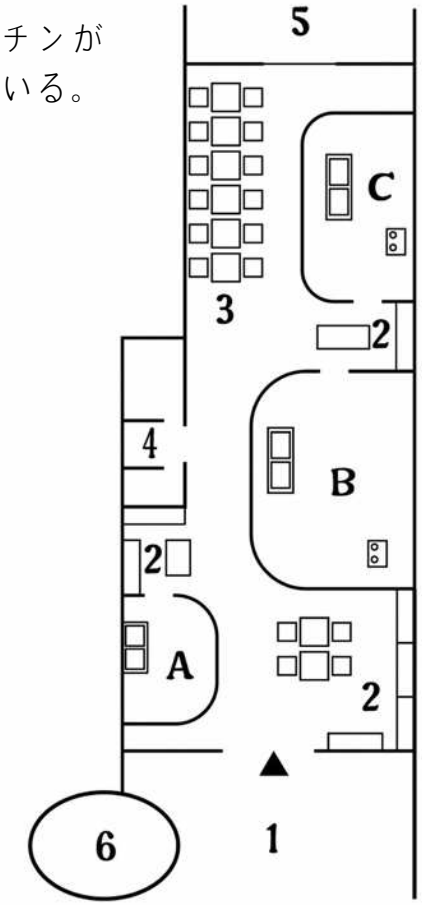
若い世代へのアプローチ

小さなイートインスペースをみんなでつくる

オラ・ネウボーノ！ JP

#食る #マーケット #小さくはじめ

この春オープンした子育ての方向けのシェア型キッチン。小さいシェア型キッチンがたくさんありさまざまなポップアップキッチンが集うマーケットなどを行っている。



地域に開かれたアートセンター

3 3 3 1 Arts chiyoda JP

#施設活用　#アート　#コミュニティ

旧千代田区立錬成中学校を改修して誕生したアートセンター（現在は閉館中）。

現代アートのみならず、建築やデザイン、地域の歴史･文化など、多彩な表現を発信する場として展示会やワークショップなどを定期的に開催。その他、地域内で市民の活動と市内の空間資源をマッチングし文化資源を創成するアーツフィールド事業を実施している。

アートセンター

アーツフィールド

空き地活用

クライストチャーチの地震復興の空き地活用

Gap Filler Project NZ

#空き地活用 #クリエイティブ・プレイスメイキング

ニュージーランドのクライストチャーチでは、2010年、2011年の地震により生じた空き地を、非営利組織Gap Filler（ギャップ・フィラー）がイベントやプロジェクトで活用している。自転車で発電した電気を使った映画イベント、誰でも本を持ってきて交換できる中古冷蔵庫を活用したブックエクスチェンジ、駐車場の発券機を再利用して地元の人が提案する無料でできるアクティビティを提案するオープンシティなど様々な取組みが挙げられる。

クライストチャーチの期間限定コンテナ型モール

Re:START NZ

#コンテナ型ショッピングモール

ニュージーランドのクライストチャーチでは、2011年の地震で被害を受けたショッピングモールを輸送用コンテナを組み合せた仮設の Re:START コンテナ・モールとして半年後に再開した。小売店、カフェ、土産物店、アートギャラリー、ブティックなど27の店舗が並び、復興に貢献した。当初6ヶ月の期間限定だったが、地元・観光客に好評となり延長され、2018 年に新しいモールに置き換えられた。

デトロイトの空き地活用プロジェクト

Detroit Side Lots Project GB

#空き地活用

人口減少が著しい合衆国のデトロイト市では2014年から市の機関Detroit Land Bankが所有する空き地を隣地の住民に100ドルで売却し、専門家が支援しながら、緑地や農地やアートスペースとして住民が楽しみながらコミュニティを作り上げるプロジェクトを行っている。近隣や地域に利益のあるプロジェクトを申請し、半年後にはLand Reuse Programを通じて近隣の住民への売却も可能。民間団体主導のDetroit Future City計画もある。

都市の資源循環を考える

メルボルンの圃場・カフェ・農園

CERES AU

#畑 #廃材 #その場で食べる

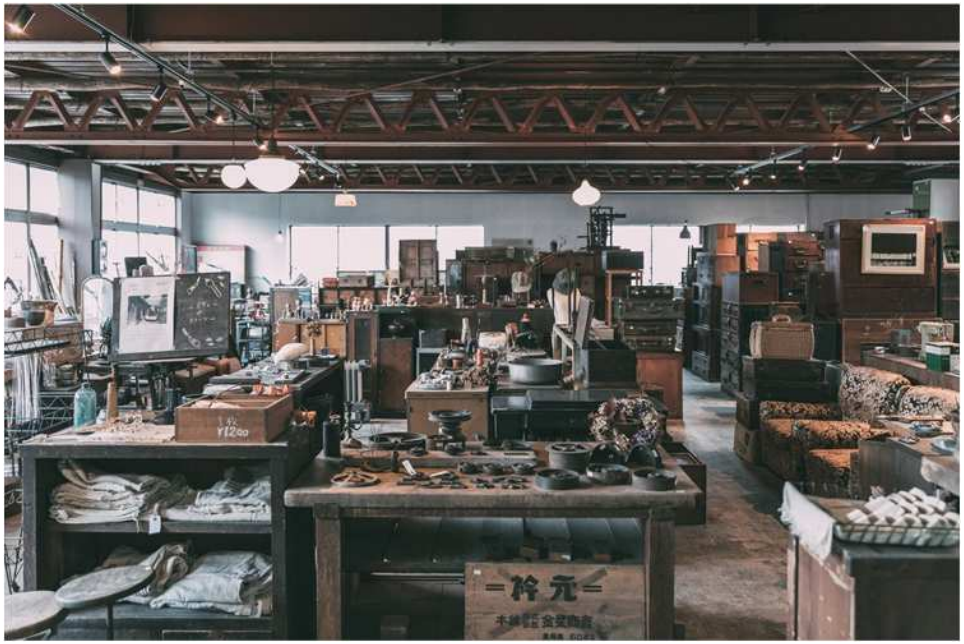
オーストラリアにある農場、圃場、カフェであるこの場所では、農場でつくられた新鮮な食べ物がこのカフェで味わうことができる。インテリアも農場ででた廃材でつくられている。

長野県諏訪市の古廃材の再利用から行う設計

ReBuilding center japan　JP

#空き家　#廃材 #廃材利用ワークショップ

長野県諏訪市にある、ReBuilding center japanでは、空き家の片付けなどを行い、そこで出た廃材を建材として利用した設計を行っている。また、この場所には、廃材の販売の他、廃材加工のワークショップ、廃材を生かしたインテリアのカフェなどがある。



都市の街路樹から家具をつくる

都市森林プロジェクト JP

#街路樹 #まちの資源を生かす

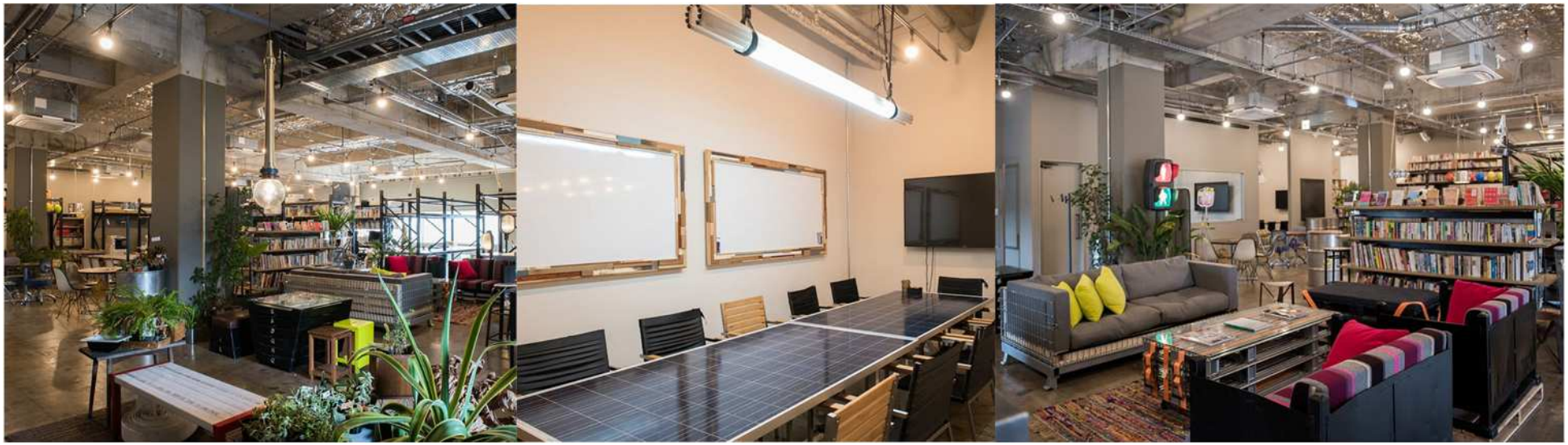
世田谷で取り組むプロジェクト。まちの街路樹で、伐採されるものはこれまで多くが廃棄されてきた。そこに目をつけ、都市の街路樹から家具やインテリアなどをつくるプロジェクト。街路樹の伐採自体も、まちの人によって行われる。曲がり木などが多い街路樹をうまく生かし、都市の緑から資源を生み出すプロジェクト。世田谷区庁舎 新庁舎の家具をつくるワークショップなども行っている。

Architect Studio in Tokyo

Open A, Under Contruction JP

#circulardesign #upcycling

UN.C. -Under Construction -は、中央区馬喰町に位置する約40名の個人・企業が入居するシェアオフィス。入り口からまず目に飛び込んでくるのが、少しクセのある不思議な家具や照明だ。これらはOpenAと産業廃棄物処理会社のナカダイが共同で起ち上げたアップサイクルプロジェクト「THROWBACK」のプロトタイプ。さまざまな廃棄物を再加工することで、新たな価値を持つプロダクトへと進化させる試みを、この場所で実験的に開始し。



Community Centre in Fulham

Sands End Centre GB

#circulardesign #community

西ロンドンにあるコミュニティセンターのプロジェクト。このSands End Arts and Community Centreは、循環型経済のアプローチを取り入れて設計された。 StoneCyclingとの協力により、エコフレンドリーなレンガの開発が確保され、木材や建設廃棄物から作られた再利用可能なレンガなど、持続可能な素材を利用している。

Headquarter in Tokyo

Semba Corporation JP

#circulardesign #renovation

解体されたオフィスから回収された再利用可能な材料を使用して設計しており、 80%が再利用された家具と驚異的な99%の廃棄物リサイクル率を持っている。

Office in Düsseldorf

Urselmann Interior DE

#circulardesign #renovation

スタジオUrselmann Interiorのオフィスの改修。グルーレスの接合部やセルロースベースの壁クラッドなどになっており、リサイクルまたはアップサイクルされた材料を使用している。また、改装中に救出された既存の木製床やテラゾー床、そして資源効率の高い建材プラットフォームConcularから入手したヒーターなどを見ることができる。

八潮地区まちづくりコンセプト検討事業

発行者：品川区地域振興部地域活動課八潮まちづくり担当

調査等委託先：環境エネルギー政策研究所

調査協力：株式会社リ・パブリック